

今回は、診療部長兼心臓血管外科長の佐藤洋一医師にお話を聞いてみましょう。

**Q**▶ 大動脈瘤<sup>りゅう</sup>や下肢静脈瘤に対して、市立病院ではステントグラフト治療やレーザー治療など、これまでの人工血管置換術や静脈抜去術に比べて患者さんの体に優しい治療を行ってきました。最近は何か治療法に変化があったのでしょうか。

**A**▶ 実は今年9月から脊髄刺激療法（刺激装置植え込み術）という手術が当院でできるようになりました。置賜地区では初めてです。この治療法は下肢の動脈が動脈硬化で硬く狭くなったり閉塞したりして、足先に十分に血流がいなくなる閉塞性動脈硬化症に対するものです。動脈にバイパスしたりカテーテルで狭いところを拡張させたりする治療が中心でしたが、動脈が本当に細くなってちりぢりになるとバイパスもカテーテル治療もできなくなります。すると血が足りず歩くと

下肢が痛くなるためあまり歩けなくなりませんが、そのような患者さんにはこの方法で治療が可能です。脊髄の周りに硬膜という膜があり、その外側に電極を置いて脊髄から出てくる神経を刺激するのです。そして痛みを除いたり下肢の細い動脈を拡張させて血流を改善させたりします。この治療法は局所麻酔が可能となっています。ペースメーカーのようにお尻の上部の皮下に電池を植え込みます。9月～11月に5人の患者さんに植え込みました。動脈の疾患のみでなく脊柱管狭窄症<sup>きょうさく</sup>などの脊髄疾患にも適用できます。下肢が慢性的に痛む人は一度相談してください。

